

市町村社会教育担当者研修

全県一区:9/14(月)大田市民会館

分かる!活かせる!“計画”の作り方基礎講座

—家庭教育支援編—

説明Ⅰ「本県における家庭教育支援施策の現状」

県社会教育課 家庭教育SL 榎野古人

1. 家庭教育の捉え方
 <家庭教育力の低下というけれど→家庭は努力している傾向→**家庭教育が困難な社会**になってきている>
2. 家庭教育支援をめぐる動き…法律から、国の施策から、県の施策から説明
 島根県では ○結集!しまねの子育て協働プロジェクト ○親学プログラムの普及・定着支援
 ○親学プログラム2の開発、ファシリテーター養成 ○職場で親学 ○親と地域をつなぐPTCA活動活性化事業を展開
3. 家庭教育支援を考える上で…①親の育ちを応援する ②家庭のネットワークを広げる ③支援のネットワークを広げる



説明Ⅱ「親学プログラム」の意義とその活用について

社会教育研修センター 社会教育主事

現行「親学プログラム」は、親同士が日頃の子育てをふりかえり、知識・経験・不安・悩みなどを出し合い、親としての役割や子どもとのかかわり方の気づきを促すことを目的として開発されました。プログラムを進行する「親学ファシリテーター」の養成も合わせて行われ、県内でのプログラムの普及を推し進めてきました。参加者からは、“悩みや不安が軽減した。子育てをふり返る機会になった”などの声が聞かれました。

「**親学プログラム2**」は、対象を全ての子育て層に広げ、いじめや児童虐待予防につながる**“親の力”の向上**、地域ぐるみで親と子どもの育ちを支える**“地域”の力**の向上を目的に開発されました。楽しく・互いに・体験的に学習することは変わらず、その上で**「様々なつながりをつくる」「親の社会的役割について考える」「いじめや児童虐待予防について考える」**の3つの柱をすえました。この両プログラムを活用することにより、考える親集団から行動する親集団へ、ひいては“自己実現”へとつながるものになることを期待します。



講義「これからの時代の家庭教育支援の在り方」

大阪府立大学 教授 山野 則子氏

講義のポイント

- ・貧困は特別なことと思いませんか
- ・非行、不登校は学校の問題だが、貧困は福祉の問題と思いませんか
- ・専門家が入れれば解決するわけではない＝仕組みが必要
- ・それぞれの立場でできることはある

国の動き

- ・2015.3/生活困窮者自立支援制度に関する学校や教育委員会等と福祉関係機関との連携について(通知)…(内容)学校で早期発見、関係機関の連携、SSW(スクールソーシャルワーカー)の役割、支援を家庭につなぐ等
- ・2015.4/SSWを基幹職員として法的に位置づける方針

支援者の現状

- ・支援者同士、お互いの役割を知らない
- ・協力しあっていない
- ・支援される側のニーズを十分把握していない
- ・専門機関が対応できるのはごく一部

大事なこと

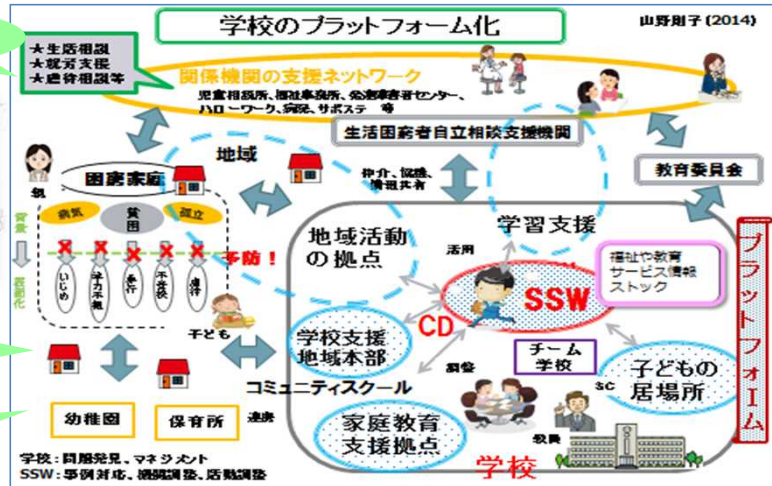
- ☆子どもに
 - ・将来の選択肢を広げること、モデルを示すことが大事(親だけの価値観ではない、いろいろな世界をみせる)
 - ・子どもの居場所づくり
- ☆大人に
 - ・完璧な親はいない
 - ・孤立を防ぐ親の居場所づくり
 - ・困ったときに解決策を見いだせる引出しを増やす
- ☆関係機関に
 - ・各機関と連携・協働する
 - ・全体の中でどの部分を担っているか理解しておく
 - ・子育て家庭へ向いて行く
 - ・当事者を主人公にした学びを提供

全ての子どもがきている学校に支援システムを



どこにsosしたらいいかわかる 全てがつながる・見えている

学校に、①全ての情報をキャッチできるように
 ②情報を担保し、様々な資源を活用できるように
 ③教員の認識をつくる
 =SSWの可能性



山野則子氏「学校プラットフォーム化」図引用

演習「家庭教育支援事業を整理し、今後の方向性を考える」

社会教育研修センター 社会教育主事

社会教育策定の意義と手順

アイスブレイク

自己紹介「わがまちの現状」

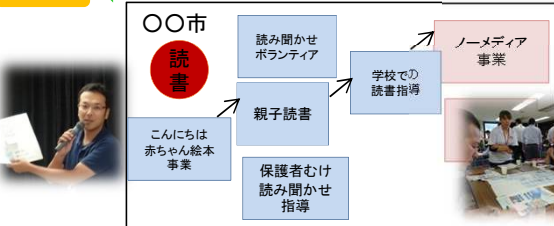
〇市町村ごとに家庭教育支援に関する事業の洗い出し

- 〇わが町で実施している家庭教育支援事業を付箋に書く
- 〇付箋を4つの方策に当てはめる
- 4つの方策**(つながりが創る豊かな家庭教育:文科省H24から引用)
 1. 親の育ちを応援する学びの機会の充実
 2. 親子と地域のつながりをつくる取組の推進
 3. 支援のネットワークをつくる体制づくり
 4. 子どもから大人までの生活習慣づくり
- 〇他市町村の事業を見て回り参考にする
- 〇現在実施はしていないが計画したいと思っていた事業や今日のこれまでの学びで実施したいと思った事業を付箋に書く

発表

〇市町村ごとに連携・協働の方策を考える

- 〇今考えられる「わがまちの家庭教育支援」の方策
- ①他部局と連携して進めることができる事業はないか
- ②いくつかの事業を並べ、計画的に進めることはできないか(図や表にしてみよう)



講評「演習の様子から」

大阪府立大学 教授 山野 則子氏

プランにエビデンス(根拠)を

ファシリテーターの役割
 明快、笑いがある、何を求めているか判断、柔軟性、
参加者の意識も変容できる

つながっていく仕組みづくり
 (知り合う→葛藤→融合)

- ・やりっぱなしにしないで、結果を確認(共有)できる会議をもつ
- ・みんなが何かで参加し、それを見せることが大事

チームを組む時のポイント

- ・できないことを共有しておく
- ・違って当たり前(違うから協働する意味がある)

連携・協働の方策を考える
 各部署が同じテーマで別々に事業を実施すると…1+1=2
 連携すると…1+1=2・3…に